



[今月の聖書]

C1804 『神の子の栄光』

昼の十二時になると、全地は暗くなって、三時に及んだ。そして三時に、イエスは大声で、

「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。すると、そばに立っていたある人々が、これを聞いて言った、「そら、エリヤを呼んでいる」。ひとりの人が走って行き、海綿に酔いぶどう酒を含ませて葦の棒につけ、イエスに飲ませようとして言った、「待て、エリヤが彼をおろしに来るかどうか、見ていよう」。イエスは声高く叫んで、ついに息をひきとられた。そのとき、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。イエスにむかって立っていた百卒長は、このようにして息をひきとられたのを見て言った、「まことに、この人は神の子であった」。(マルコ 15:33-39)

これらのことを語り終えると、イエスは天を見あげて言われた、「父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。あなたは、子に賜わったすべての者に、永遠の命を授けさせるため、万民を支配する権威を子にお与えになったのですから。永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。」(ヨハネ 17:1-5)

「キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。」(第一ペテロ 2:22-25)

「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ 53:4-5)

「すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいのちに生きるためである。もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にひとしくなるであろう。」(ローマ 6:4-5)

お元気でお過ごしでしょうか。イースターおめでとうございます。今月は「神の子の栄光」と題して、私達の救い主、主イエス・キリストが示された栄光の道について学びましょう。イースターの喜びの前に、主のご受難がありました。その打たれた傷によって、私達の罪も、病も癒されるのです。キリストによって完全な救いが全うされるのです。「もし、私達が彼に結びついてその死の様に等しくなるなら、さらに、彼の復活の様に等しくなるであろう。」(ローマ 6:5) 十字架と復活の信仰をしっかりと握って下さい。そこに本物の祝福された生涯があるので

(お知らせ)

* 地区集会のご案内

4月10日(火) 13:00 CFI 横浜集会 (福音喫茶メリー TEL 045-231-6773)

4月18日(水) 11:00 CFI 賛美の集い (自由が丘チャペルセンター)、14:00 ジョイコーラス

* 5月31日(木) 13:00 CFI 関西集会 (日本聖公会大阪聖パウロ教会 北区茶屋町 2-30 TEL06-6371-0170
お問い合わせ 水野初江 078-856-2290)* 6月5日(火) 13:00 CFI 千葉集会 (千葉東天紅 千葉駅前そごう隣センシティタワー23階
TEL 043-238-5555 お問い合わせ 下山真知子 090-2632-0720)

千葉集会は皆様の強い要望で2月 4月 6月 9月 11月 年五回を目標に集会を持つことになりました。

* 4月19日(木) 11:00-17:00 バイブルアカデミー第4年度 (自由が丘チャペル、受講料1回 3000円)

* 4月11日(日) 16:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会 (淀橋教会)

「それでも神を信じなさい」

飯田基子(神奈川県)

☆飯田基子姉をご紹介します。CFI の和田京子姉のお友達で、病室に CFI メッセージをお届けしたことから新しい恵みの交わりが始まりました。

手に赤い湿疹ができ、近くの個人病院で受診しましたが、大学病院に回され、膠原病の一種「皮膚筋炎」という難病と診断され、緊急入院しました。症状は悪化し、食事は喉に詰まり飲み込めず、ペットボトルも開けられず、着替えもできず、ベッドから起き上がることもできず、それまで当たり前できていたことがどんどんできなくなりました。その頃、自宅から CD ラジカセを持って来てもらい、自宅にあった賛美の CD などを聞いていました。死ぬ程ではないけれど身体は動かないと言う現状を見て、神への信頼は日々揺らぎそうになりました。

ある日和田姉が寒い中、遠路、病室に賛美と CFI の CD を届けて下さいました。何十年も前、私が二十代前半、「イエス様を信じます」と小さな教会の特別伝道集会で決心した時、メッセージして下さったのが小田彰牧師でした。お話は解らなかったのですが、小さなハープを弾きながら「きみもそこにいたのか」という賛美を聞いた時、はっきりとイエス様の十字架が私の罪のためとわかったのです。

また病室に届いた「神にはできないことはない」という CD を聞いたとたん、涙が止まらず、私が不従順で不信仰であるにもかかわらず、ずっと私を見守り、愛していて下さった主がわかり、感謝があふれ涙が止まりませんでした。

「主は遠くから彼に現れた。わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえわたしはあなたに真実を尽くしてきた」(エレミヤ 31:3)。

そして、イエス様の十字架と復活によって全てが完成したこと。罪の赦しも病の癒しも、みことば通り、イエス様によって成し遂げられること。エリヤがケリテ川の畔に身を隠し、その川の水を飲み、鳥によって養われたように、主はこの病室の中で私を養ってくださると確信しました。それは、まさに主を信頼するという訓練でした。

その頃、食事はどろどろのえんげ食、投薬治療は効かず、CK(筋力破壊)の数値は上下して、サタンは不安や恐怖や失望を植え付けようとして来ました。「堅く信仰に立って悪魔に立ち向かいなさい。」(第一ペテロ 5:9)のみことばに励まされ、サタンが大嫌いなイエスのみ名によって祈り、みことばを告白し、感謝することにしました。そして沢山の方々がお祈りで支えて下さったことを感謝しています。ある日、3ヶ月以上入院できず、突然自宅療養と言われました。6000 あった CK の数値が 400 まで下がりました(正常値は 50~170)が、自宅療養には問題もたくさんあります。しかし、日毎に身体の回復を経験しています。何よりもみことばを信頼することを教えて頂きましたことを感謝しています。栄光を主に返しします。(2017年10月に受信したお手紙から抜粋しました)

